



報道関係各位

2011年10月11日
ジェットスター・ジャパン株式会社

業務開始に向けて加速するジェットスター・ジャパン、CEO を発表

ジェットスター・ジャパン株式会社(以下、ジェットスター・ジャパン)は本日、CEO(最高経営責任者)に鈴木みゆきが12月1日付で就任する事を発表します。この決定は、先週金曜日に東京で開催されたジェットスター・ジャパンの初めての取締役会において決定されました。2012年末の日本国内での運航開始に向けた協議の中での決定であり、ジェットスター・ジャパンは、日本をリードするローコストキャリアになるための更なる一歩を刻みました。

同取締役会を代表し、ジェットスターグループのCEOであるブルース・ブキャナン(Bruce Buchanan)は、次のように述べています。

「鈴木は、30年に渡るビジネスの経験を持ち、アジアの大規模な多国籍企業の最高レベルの職務や規制緩和の進む業界での経験など、経営者として豊富な実績があります。また、様々な分野において、イノベーションを通じた効率化やより良いカスタマーサービスの提供を実現してきました。ジェットスター・ジャパンにとってイノベーションは極めて重要であり、コスト管理の鍵であると共に、国内航空市場での従来の料金を少なくとも40%下回る運賃を提供し続けるために、必要不可欠です」

鈴木みゆきは、次のように述べています。

「日本の何百万人ものお客様に、より低価格の旅行を提供するという、新しい時代の幕開けの一翼を担うジェットスター・ジャパンを率いることを誇りに思います。ジェットスターグループは、これまでの優れた安全性と競争力のある運賃設定により、アジア太平洋全域においてすでにブランドとして確立されています。そのようなグループにおいて、ジェットスター・ジャパンのビジネスにCEOとして参加できることを嬉しく思っています。日本の航空産業は現在、規制緩和によって新たな投資が促進され、日本の経済発展の触媒になろうとしています。この前例のない時代を迎える時に航空業界に参加できることに對し、非常にやりがいを感じています」

ジェットスター・ジャパンは、プロジェクトパートナーである日本航空株式会社、三菱商事株式会社、およびカンタスグループから第1回目の資本金を受領しました。ジェットスター・ジャパンの総資本額は最大120億円を予定しています。

ブキャナンはまた、「日本全国の空港を含むビジネスパートナー候補の皆さまとの協議が順調に進んでおり、幅広いビジネス界の皆さまから、ジェットスター・ジャパンに対して非常に好意的な意見をいただいています。ジェットスターブランドは5年近くにわたり、日本市場の一部となってきましたが、国内航空会社の発表以来、非常に多くの歓迎の言葉が寄せられています。予約時点においてどの競合他社の料金よりも10%下回る当社の「プライス・ビート・ギャランティー」(最低価格保証)は、競争の激しい市場において最も低価格の料金を提供することへの絶対的な取り組みを示したものであり、非常に大きな反響を呼んでいます」と述べています。



<ジェットスター・ジャパン株式会社について>

ローコストキャリアのジェットスター・ジャパンは、2012 年末までに日本国内線を、2013 年中に短距離国際線の就航を予定しています。3 機の A320 型機(180 席)により運航を開始し、最初の数年間で 24 機に拡大することを計画しています。国内線の就航都市は 2012 年半ばまでに発表する予定で、札幌、福岡、沖縄を含む路線を検討中です。ジェットスター・ジャパンは、カンタスグループ、日本航空株式会社、三菱商事株式会社の合併会社です。

<ジェットスターグループについて>

ジェットスターはレジャー市場向けに低価格運賃で運航するローコストキャリアです。いつでも低価格運賃を提供することを目指しています。ジェットスターグループは、オーストラリアおよびニュージーランドのジェットスター航空、シンガポールのジェットスター・アジア航空、ベトナムのジェットスター・パシフィック航空、ジェットスター・ジャパンで構成されています。グループ全体で週3,000 便以上を、アジア太平洋地域の 17 カ国/地域、約 60 都市に就航しています。ジェットスターは、80 機以上の機材により、短距離および長距離便を運航しています。2004 年に設立以来、毎年利益を挙げ、これまでに 7,500 万人以上のお客様にご利用いただいています。売上高においてアジア太平洋地域最大のローコストキャリアで、従業員数は 7,000 人以上になります。ジェットスターはカンタスグループの一員です。